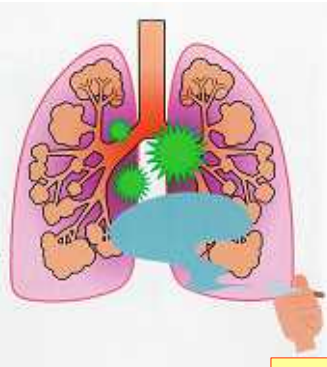


肺の生活習慣病 “COPD” (慢性閉塞性肺疾患)

COPDとはどんな病気?

COPDとは、タバコなどの有害な空気を吸い込むことによって、空気の通り道である気道や、酸素の交換を行う肺などに障害が生じる病気です。その結果、空気の出し入れがうまくいなくなることによって、通常の呼吸ができなくなり、息切れが起こります。長期間にわたる喫煙習慣が主な原因であることから、COPDは肺の生活習慣病といわれています。



診断に欠かせない肺機能検査

肺機能検査は、COPDの診断に欠かせないものです。この検査はスパイロメーターを使って、息を吸ったりはいたりして行います。息切れなどの自覚症状が現れた場合は、早いうちに病院を受診し、肺機能検査を行うことが重要です。

喫煙がCOPDの引き金に

COPDは別名タバコ病といわれるように、ヘビースモーカーに多い病気で、患者の90%以上は喫煙者です。また、受動喫煙によっても起こります。さらに喫煙以外の原因として、大気汚染や職業的な塵埃・化学物質も刺激になります。



今、タバコをやめれば間に合います!

長期にわたる喫煙者のうち7人に1人がCOPDになるといわれています。

COPDになってからでも、禁煙を行えば、呼吸機能の減少率は2年以内に、喫煙していない人の減少率とほぼ同じになることがわかっています。今すぐ禁煙しましょう。

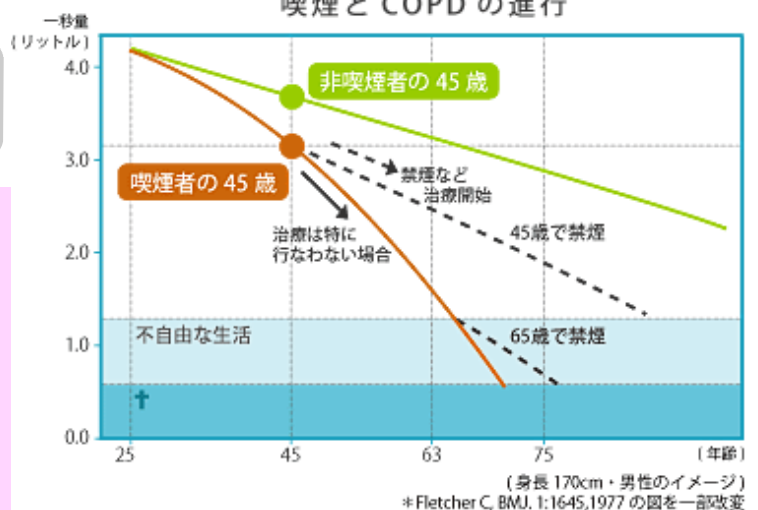
代表的な症状は“息切れ”です

特に体を動かしたとき、例えば階段の昇降時や坂道を登るときに気づきます。

その他の症状は・・・
慢性の咳と痰
ときに喘鳴(かぜをひいたとき、あるいは運動をしたとき)



喫煙とCOPDの進行



ポイント▶ 非喫煙者に比べて、喫煙者の1秒量は加齢とともに大きく低下する。

禁煙外来を積極的に活用しましょう